

## 平成27年度第2回総合教育会議議事録

- 開催日時 平成28年2月17日（水）午後3時
- 開催場所 本庁舎別館 403会議室
- 出席者 谷藤裕明（市長），星野勝利（教育委員長），田口淳一（教育委員），松尾正弘（教育委員），佐藤康子（教育委員），千葉仁一（教育長）
- 事務局職員  
鷹觜徹（教育部長），中野玲子（教育次長），外山敏（教育次長兼学務教職員課長），菅原英彦（参事兼総務課長）  
東藤郁夫（市長公室長），細川恒（市民部長）
- 傍聴者 1名
- 内容 次のとおり

### 1 開 会

#### （菅原参事）

定刻となりましたので、ただいまから、平成27年度第2回盛岡市総合教育会議を開会いたします。私は、本日の司会を務めさせていただきます教育委員会総務課の菅原でございます。よろしくお願いたします。

本日の会議は、構成メンバーである「市長」と「教育委員」の全員が出席しております。市長部局から、東藤市長公室長と細川市民部長，教育委員会事務局から、鷹觜教育部長，中野教育次長，外山教育次長となっております。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

開会にあたり、谷藤市長から、あいさつをお願いいたします。

### 2 あいさつ

#### （谷藤市長）

本日は、第2回目となる総合教育会議に、教育委員の皆様には、御多用の中、御出席いただきありがとうございます。

また、日頃から、盛岡市の教育の充実のために御尽力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年5月14日に開催いたしました「第1回総合教育会議」におきましては、教育大綱の策定について、星野委員長をはじめ、委員の皆様から、たくさんの御意見を頂戴することができました。

委員の皆様と活発な意見交換をさせていただいたことで、教育施策の方向性を改めて共有するこ

とができ、非常に実りある会議であったと思っております。

さて、現在、当市では新しい総合計画のもと、これからの盛岡を担う子どもたちが、「あかるく」「かしこく」「たくましく」成長することができるよう、地域全体で子育てを支援する「子育て応援プロジェクト」などの取組を進めているところであります。安心して子どもを育てることができる環境づくりを総合的に進めるためには、教育委員会との連携は欠かせないものであると考えております。

また、過日開催された希望郷いわて国体冬季大会を皮切りに、9月には、水泳競技大会、10月には、本大会及び希望郷いわて大会が開催されます。委員の皆様におかれましても、大会の成功に向けた取組と、国体を契機とした学校教育の充実をより一層、進めたいと思っております。

本日は、第1回目の会議で協議いただきました、教育大綱に掲げる「目指す市民像の実現に向けて」と、「教育委員会との連携について」、協議したいと思います。委員の皆様から忌憚のない御意見をいただきますよう、お願い申し上げます、私からのあいさつとさせていただきます。

本日は、よろしくお願いいたします。

#### (菅原参事)

ありがとうございました。

それでは次に、次第の「3 議題」に入ります前に、本日の進め方について、説明させていただきます。

「議題」の進行につきましては、運営要綱第2の規定により市長が議長となり進行いたします。

議題の進め方につきましては、(1)の「盛岡市教育大綱に掲げる「目指す市民像」の実現に向けて」は、資料1、盛岡市教育大綱とカラー刷りのキャリア教育などの資料を基に進めてまいります。

(2)の「市長と教育委員会との連携について」は、資料2を基に進めてまいります。

### 3 議 題

#### (菅原参事)

それでは、「3 議題」入りしたいと思います。盛岡市総合教育会議運営要綱第2の規定により谷藤市長に議長をお願いします。

#### (1) 盛岡市教育大綱に掲げる「目指す市民像」の実現に向けて

#### (谷藤市長)

それでは、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

(1)の「盛岡市教育大綱に掲げる「目指す市民像」の実現に向けて」であります。最初に、「目指す市民像」の実現に向けて、私の思いを述べさせていただきたいと存じます。その後、委員の皆様から御意見を頂戴したいと思います。

「目指す市民像」は、昨年5月に策定した教育大綱及び教育振興基本計画の基本理念であり、「多くの先人を育ててきた美しい故郷盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に生きる未来を創る人」であります。

そしてまた、新しくスタートした総合計画の基本構想のもとに、「ひと・まち・未来が輝き世界につながるまち盛岡」を目指し、様々な施策を進めているわけですが、将来のまちづくりの担い手である子どもたちの教育の充実は、欠かせない大事な項目であると思っております。

特にも、大綱の中でも、すべて大切な施策であります。目指す市民像にかかわっては、「先人教育」、「キャリア教育」、「教育振興運動」は、重要な取組であると思っております。

先人教育の推進につきましては、様々な取組をしていただいておりますが、盛岡は、これまで多くの先人を生み出してきました。先人教育は、盛岡の教育の特色ある、誇るべきものであり、優れた盛岡の先人の生き方を学んだり、そのゆかりの地に足を運んだりすることを通して、盛岡の風土・文化に誇りと愛着をもってもらう大切な取り組みであります。盛岡の子どもたちには、この教育を通じて「夢」と「誇り」と「志」を育てたいと思っております。

「目指す市民像」に迫るためには、盛岡の先人教育を中心として、盛岡の歴史や文化、自然や風土を生かした盛岡らしい教育を、これから一層充実していくべきだと思っております。

そして、盛岡の子どもが、盛岡市以外の人たちへも、故郷盛岡の先人を誇らしく語る姿を期待したいものだなと思っております。

それから次に、キャリア教育の推進でございますけれども、教育は、子どもたちが、将来、社会に出て働き、自分の力で生きていく人間になることを目指すべきものと思っております。その意味からも、子どもたちに社会的、職業的自立のために必要な能力を身に付けさせるキャリア教育は欠かせないものであり、学校教育全体で、計画的・組織的に進めて欲しいものであります。

子どもたちには、積極的に、実際の職場を見たり体験したり、職業人の話を聞く機会を通して、働くことの意義や喜びを感じて欲しいと思っておりますので、キャリア教育推進協議会、工業クラブや商工関係者、市の内部である保健福祉部、商工観光部などの委員の様々な話を聞く機会などを通じて、連携を強める必要があると思っております。

3点目になりますけれども、盛岡の教育振興運動は、「児童生徒」「家庭」「学校」「地域」「行政」の5者が相互の責任と連携で進める運動であります。

平成28年度からの計画に、スマートフォン等「情報機器の適切な利用」が入っていることに気が付いたわけですが、ネット依存やネットいじめ等の問題もありますので、社会全体で考えていくべき重要な課題だと思っております。

地域活動や伝統行事、伝承活動への積極的な参加により、地域社会の一角だという自覚を持たせ、総合計画にある「社会を担う人材の育成・支援」につながるものと思っています。

そして、家庭教育の大切さと、地域全体で子どもを育てることが、「まちづくり」につながっていくものだというを感じています。

私の方からは、感じていることを含め、話させていただいたわけですが、委員の皆様からも「目指す市民像」の実現の向けての思いや御意見をいただければと思います。

私の方から僭越ながら御指名させていただくということで、星野委員長、いかがでしょうか？

#### **(星野委員長)**

それでは、私から述べさせていただきます。その前に本日は第2回の総合教育会議に大変ありがとうございました。5月の第1回会議で市長さんと直接話し合いの場を持てましたこと、教育委員会一同感謝申し上げます。

目指す市民像につきまして、私の思っていることですが、私の場合、まず、「盛岡のまち」ということについての思いが強くあります。個人的な話になりますが、私の故郷、生まれ育ちは北関東であります。ですが、盛岡に住み始めてすでに40年以上が過ぎました。今では盛岡が、気持ち的には第一の故郷となっております。こうなったのには理由があります。その理由ははっきりしています。盛岡というまちが持っている潜在的な大きな力のためです。その力とは、盛岡の歴史であり文化であり自然だと思っています。そして、何よりも人があると思っています。これらの大きな力に絡め取られまして、盛岡は、私の第一の故郷となりました。歴史、文化、自然、そして人。盛岡ほどこれに恵まれたまちは、日本中どこを探してもなかなか見当たらないのではないかと個人的には思っています。とりわけ、盛岡は人に恵まれています。市民のだれもが誇りとして、模範とすることができる先人に恵まれております。子どもにとって第一の模範が親であるとすれば、盛岡市民にとって第一の模範は、先人になるであろうと思われま。

はじめて盛岡に来た時、北上川は赤茶けた川でした。今ではこの川も緑の美しい風景になりました。この盛岡をさらに美しいまちにするためにも、盛岡の未来を担う子どもたちが先人に思いをはせることは、大切な学びであろうと思っています。目指す市民像として、先人について学ぶことを掲げている、市の教育大綱は、盛岡市が誇るべきすばらしい大綱であると思っています。

教育委員会も、この大綱を実現するべく全力で取り組んでいかなければならないと思っています。私からは以上です。

#### **(谷藤市長)**

はい。ありがとうございました。それでは、続きまして、田口委員さんからお願いします。

(田口委員)

私も今、星野委員長さんの話を聞きまして、同じようなことをお考えなんだとあらためて思いました。私も北海道が出身であります。現在は、この盛岡が私にとりましてかけがえのない、さらに他に誇れる、そういう文化を持っていると思うわけであります。

私からは、学校教育についての感想を述べさせていただきます。

市の教育大綱に見られます目指す市民像は、ある意味、知、徳、体、バランスのとれた人間づくりを目指していると、そういうイメージがありますが、このことは、学校教育の目的と合致しているわけです。そのことを考えた時、盛岡の持っている豊かな自然、今も息づいている歴史や文化、そして多彩な先人たちの教え、これらはまさに学校教育を支え、後ろ盾になっているわけですし、そのような中で育つ子どもたちは幸せだと思っているわけです。また、このような、いわば教育財産を大切にしまちづくりを進められていることに対しまして、大変ありがたいと、そのように思っているところであります。各地区で展開されております教育振興運動やあるいは、学校現場での子どもたちの様々な活動を見るにつけ、このような環境の中で成長している児童生徒は、必ずや、盛岡に生まれてよかったといえるような人間になると思っておりますし、本日配布されております資料の中に意識調査がありますが、その中でも、故郷盛岡に対する愛着の高まりは、全国と比べてかなり高いという傾向が出ております。郷土を愛する心を身に付けさせることも教育の大切な目的であります。

さらに加えれば、知徳体のさらなる特化も求められているのではないかと考えております。将来的には盛岡の子どもの中から、ノーベル賞の授賞者やあるいはオリンピックの金メダリスト、そういう人材を育て、県民に自信と夢を与える、そういう人の出現も期待しているところであります。その意味では、身近なところに岩手国体や国際リニアコライダーの誘致など、大いなる夢と刺激を与える素材もありますので、市長部局とも連携しながら努力したいと思っておりますし、さらなる御支援をお願いしたいと考えております。

(谷藤市長)

はい。ありがとうございました。松尾委員さん、お願いします。

(松尾委員)

私は、教育振興運動に触れたいと思います。

盛岡市の教育振興運動は、今年度で50周年を迎えました。先頃開催されました記念実践発表会、祝賀会は記憶に新しいところがございます。私も数年前までは保護者として、現在は地域の住人に1人として、また教育委員として運動に関わって参りました。今年度も数カ所、教育振興運動実践発表会に足を運びまして、運動が地域に浸透していることを実感いたしました。

11月7日、大宮中学校体育館で行われました第1地区集会のアトラクションで、大宮中学校吹奏楽部の演奏を聴きました。その日、会場に集まった保護者や地域の人たちを楽しませようと考え抜いた選曲とフレッシュな演奏に感激いたしました。地域の老人施設等へ出張して演奏することもあるそうで、入所者から感謝の言葉が寄せられているとのことでした。

日本人は他国に比べて自己肯定感が低いと言われております。しかし、大宮中学校吹奏楽部のメンバーは決してそんなことはないはずです。満場の拍手をもらい、「上手だった」「楽しかった」「ありがとう」と言われて、おそらく練習の辛さもすべて吹き飛んだことと思われま

す。自分の存在意義というものは、こうした経験を多く積むことでしか自覚できないものだと思います。やり遂げた、という達成感と第三者から認められる喜び、この二つを子どもたちに数多く経験させてやるのが我々大人の責務だと考えます。

盛岡の児童生徒が、偉大な先人に学び、世代を超えたコミュニケーション能力を身に付け、他人を敬い、自分の仕事に自信と責任を持って取り組める、立派な盛岡市民に成長してほしいと願っております。以上でございます。

**(谷藤市長)**

はい。ありがとうございます。佐藤委員、お願いします。

**(佐藤委員)**

はい。私からは、保護者としてのコメントをさせていただきます。

目指す市民像は、子育てをする上で大切なことが一つにまとまっている市民像だと思っております。私も昨年、中学校の卒業式で、子どもたちにお祝いのことばを述べるにあたりまして、何を言ってあげればよいかと考えました。ほとんどの子どもたちは、市内の高校に進学しますが、中には、県外に行ったり、国のために働くという子もおりました。その子たちに、どんな困難にも耐えて立派に羽ばたいて行ってほしいなという気持ちを伝えようと、生まれ育った郷里を愛し、感謝の気持ち、先人の教を忘れずに羽ばたいて行ってほしい、と言いました。そういう気持ちを考えている母としては、この市民像は、お母さんたちにも見ていただきたいということを考えております。

**(谷藤市長)**

はい。ありがとうございました。千葉教育長、お願いします。

**(千葉教育長)**

はい。目指す市民像の実現に向けて、ということではありますが、学校の日々の教育活動を充実さ

せるということが一般論でありますので、特に、先ほど市長さんも話されておりましたが、将来の社会に出て仕事について、自立して生きる人間にならなければならない、私はこれが一番大事ではないかと思えます。そういう意味で、市長さんと全く同じ思いであります。

近年、若者の中には、自分の進路が見いだせないでいるということがあるにつけ、いわゆるキャリア教育を充実しなければならないと思っております。そのキャリア教育の中で、望ましい勤労観、働くことの意義、働くことの尊さ、望ましい職業観ですね。社会はいろいろな職業で成り立っている、職業に貴賤というものはないということ、さらには、将来の自分の進路に対する夢、希望、目標をどの子も持つようにしていくことが大事ではないかなと思っております。

2点目ですけれども、子どもたちが自分に自信や誇りを持つようにすることが大事だと思っております。さきほど、松尾委員さんが、日本の子どもたちが自己肯定感が低いということをお話されましたが、今の子どもたちは、自尊感情、あるいは自己肯定感、自己有用感をあまり持てないという傾向があります。お手元の資料にもありますけれども、「自分によいところがありますか」という問いに対して、盛岡の子どもたちが、「あります」と答えた割合が小学校6年生では平成26年度ですが、75.5%で7割以上ですが、全国平均よりも若干低くなっておりまして、中学校3年生につきましても63.5%でこれも全国平均よりも低くなっておりまして。ですから、先人教育の狙いが、夢や誇りや志を育むということでもありますので、先人教育を通じながら子どもたちの自尊感情、自己肯定感、自己有用感これについても大事ではないかなと思っております。

最後になりますけれども3つめです。子どもたちが地域や社会に貢献できる人間になってほしいという思いをつづっております。盛岡を愛するということは、郷土を愛する、地域を愛するということですので、地域の役に立つ人間になりたいという思いを教育振興運動を通じながら、教育振興運動では、地域活動やボランティア活動等々含んでおりますので、そういうことに力を入れながら取り組んでいくことが目指す市民像の実現に近づくのではないかなと思っております。

#### (谷藤市長)

はい。ありがとうございました。各委員の皆様方にこの件について話していただいたわけですが、将来を担う子どもたちにきちんとしていきたい、芽を伸ばしていく、そのために我々が何をしていかなければならないかということですが、ふだん子どもたちが持っている力、個性を伸ばしていく、そしてまた、社会がどういうふう構成されているかということがなかなか分からない、自分が将来どういう方向に進んだらよいか分からないという面も多々あるわけですので、いろいろな職業があるうち、どの職業が欠けても世の中成り立たないわけで、みんなの仕事も大切に担っているんだと、その中に子どもたちが将来なっていく、夢を実現できるような、そういう環境をぜひこれから多く作ってあげる必要があるのではないかなと思えます。特に、郷土に誇りを持って愛するという心を育てていきたいなと思えます。それから、社会に出るといろんな壁にぶ

つかったりしますので、たくましい子どもたちであってほしいなと思っておりますし、国際リニアコライダー、将来どうなるか分かりませんが、いずれ、国際社会そういう方向に向かって、この盛岡は動いてきている。そして、多くの外国の方々が訪れるまちになりつつあるというわけです。そういう意味でも、国際化にも対応できるような大きな視野を持てるような世界に目を向けるような、そういう大きな志を持ってやってほしいなと感じております。今後ともいろいろと指導いただければと思います。

## (2) 市長と教育委員会との連携について

### (谷藤市長)

それでは、次のテーマ「市長と教育委員会との連携について」であります。はじめに、①の「スポーツ・文化活動の推進」について、事務局から説明をお願いします。

### (鷹觜教育部長)

では、私の方から資料2を御覧いただきまして、簡単に説明させていただきます。①のスポーツ・文化活動の推進については、連携項目を2点掲げております。1点めは、国体を契機とした、学校教育の充実と市民スポーツの推進であります。事業の内容としましては、国体推進局や実行委員会と連携しまして国体を盛り上げることであります。連携における課題としましては、国体推進局からの依頼事項が学校で重複することなどへの対応を記載してございます。また、28年度以降の方向性としましては、いわて国体を契機とした継続的な取組などと記載してございます。

2点めは、学校文化活動助成事業でございます。事業の内容としましては、市内小中学校の文化活動に対する市の助成事業であること。課題及び28年度以降の方向性としましては、教育活動として行われる文化活動が市全体の文化振興につなげる必要があるとしております。

資料説明は以上でございますので、進行の方よろしくをお願いします。

### (谷藤市長)

はい。様々な取組をあげていると思いますので、先に、私からコメントさせていただきます。

国体が今開催されておりますけれども、国体を契機として、学校教育それから市民スポーツの推進ということと合せて元気なまちをつくっていくための基礎になりますので、よろしくおねがいしたいと思います。国体については、地元選手の活躍が成功の鍵だと思いますけれども、市民の一体感が地域の活性化につながるということでもあります。それから、開会式等でも非常に素晴らしかったなと思いますけれども、全国から訪れる選手役員の方々に対する学校の役割分担がありますけれども、応援をしながら一体となって大きなことを感じ取ったであろうと、参加された各県の方々に

も非常に素晴らしい開会式の演出だったし、一体感、そういうものがあつたなというお褒めの言葉もいただきました。国体は10月までであるわけですが、国体の終了後も参加した子たちが、国体を契機としてスポーツに興味を持ってスポーツをはじめるときかけになってほしいなと思っております。

それから、スポーツ推進計画の着実な推進についても、教育委員会でも、今日は市民部も来ておりますが、学校教育でのスポーツ推進ということも、うまく連動していく形を作り上げながらぜひ広めていってほしいなと思います。

それから、今回の国体の中でも冬季の場合、アイスリンクが東北唯一の公設通年型スケートリンクということですので、この利点を生かしていってほしいなと。今までですと冬期間しかスケートができないということでしたが、夏でも春でもいつでもできることになりますので、ぜひ、経験をしてもらい、そこからいろんな競技に進むということがありますので、1年24時間、いつでも滑れるという環境があるわけですので、授業にもスキーはありますが、スケートの環境が整ったわけですので、存分に北国岩手盛岡の子としては、経験を積んでいくということが大切だと思いますので、そういう機会をぜひ教育の時間の中に組み込んでいただきたいなと進めてほしいなと思っております。

それから、学校の文化活動助成事業ですけれども、今までは、スポーツ競技の全国大会が目立っていましたが、表敬をいただく学校の文化関係もずいぶん増えたと感じております。全国大会の金賞だとか、いろいろな所で活躍している子どもさんたちがおりますので、体育面だけでなく文化面でも、大きな舞台で活躍してくれる子どもたちを応援していける形を作りたいなと思っております。それから、議会の方からも声が出ておりますが、全国大会に行くときに金管バンドなど組織が大きいと全国規模で動くときに、大変費用がかかるという話が出ています。この件については、今回の予算の中でもきちんと認識し対応させていただくと。それぞれの小中学校の動きを把握した上で、対応できるようにしたいと思っております。そのことが将来、文化の香り高き盛岡に繋がっていくと思います。

この件、国体や文化活動について、話させていただいたわけですが、この件について、星野委員長さん何かありますか。

#### (星野委員長)

私からは、国体につきまして、教育委員会の対応について申し上げたいと思いますが、今年度は市内の小中学校、各学校で国体開催のムードを盛り上げるため、市の国体推進局と連携いたしまして、いろいろな取組を進めてきました。第一としまして、マスコットキャラクターに学校の運動会や陸上競技会、球技大会に参加いただきまして、子どもたちと一しょにわんこダンスを踊ってもらいました。このような触れ合い体験を通して、子どもたちに国体への思いや期待を膨らませ

ていただきました。また、子どもたちに横断幕や応援のぼり旗の作成などにも取り組んでもらいました。学校全体で国体への機運を高めているところであります。来年度も、今年度と同様、本大会の成功に向けて、国体推進局と連携を図りながら各種事業、クリーンアップ事業やあいさつ運動など積極的に推進していきたいと思っております。

課題としましては、各学校の運動会や文化祭の日程が重なることが多く、これを調整して、できるだけ多くの学校で触れ合い体験ができるようになればと考えております。また、できるだけ多くの児童生徒を安全に参加したり、応援に参加できるよう、貸切バスを十分に確保することが必要と考えております。今回の国体開催を契機としまして、スポーツへの関心が、まちの中で、学校の中で一段と高まっているということが感じられますので、各学校におきましても、体育の授業や部活動を通して、あるいは、国体推進局と連携しまして国体に出場した選手や監督の講演会などの開催を通しまして、冬季競技も含めまして、市をあげてスポーツに親しむための環境づくりを今後も推進してまいりたいと思っております。以上です。

**(谷藤市長)**

佐藤委員さんから、何かありますでしょうか。

**(佐藤委員)**

はい。私からは、文化活動助成事業についてですが、体育活動だけでなく、文化、科学といった文化面で遠征費の補助をいただけるということで、たいへんうれしく思っています。2月6日のマリオスで教育振興運動50周年において、北陵中学校の演奏を聴く機会がありました。北陵中学校の吹奏楽は大編成です。たくさんの部員とたくさんの楽器がありました。市内での移動でもトラックが必要だったんだなと思いました。観客の前で演奏するというのも練習になるということで、部活の顧問の先生や保護者は、率先して、地域の祭りや施設や病院などで演奏会をしていると聞いています。そういうときには、PTA 会費や父母会で蓄えているものから支出しているということを知っています。ですから、合唱部や吹奏楽部は大人数で行われることが多く、楽器の移送費だけでもたくさんかかるということを知っていたので、生徒たちが保護者の負担を心配しないで演奏に十分取り組むことを願っています。負担の軽減は子どもたちの演奏に制約されないようお願いしたいと思います。

**(谷藤市長)**

はい。ありがとうございました。国体と文化活動についてお話をいただきました。

国体については、子どもたちにできるだけ主力選手の戦い方やいろいろな場面を是非見る機会をたくさん作っていただければと思いますし、また、移動については、いろいろな手配をして大切な機会

を作って生かしてもらいたいと思います。また、のぼり旗も会場いっぱいを作っていただいた。全国の方々も自分の県のがあるな、と喜んでいました。大きな効果があったと思います。また、北陵中学校の吹奏楽は、いつも、全国大会に何年連続というかたちで出場していますが、そのたびに地域の方々の寄付集めに奔走しているというお話を聞いています。そういうことで、是非心配いらないように、なかなか全部市で持つということはできませんが、できるだけ応援していけるようにしていく必要があるのかなと思います。やはり、スポーツも文化活動も人前で数多く演ずることは、場慣れといいますか、度胸がつくといいますか、そういうことを繰り返しながら大きくなるという要素があると思いますので、そういう場面を支援できるよう、きっかけづくりをしていければなどと思います。

ほかにみなさんもそれぞれお考えがあらうかと存じますが、時間が限られておりますので、次に進めさせていただきたいと思います。

次に、②の「子どもの安全安心対策」について、に移ります。事務局から説明をお願いします。

#### (鷹觜教育部長)

それでは、資料2の②でございます。簡単に説明します。子どもの安全安心対策で3件ございます。1件目は不登校対策であります。内容としましては、不登校児童生徒への対応として関係機関との連携について記載してございます。課題及び28年度以降の方向性としてしましては、保健福祉部の関係各課との情報共有や委員会への保健福祉部職員の委嘱の検討と掲げております。

2件目を御覧いただきます。いじめ防止対策等としております。事業内容としてしましては、平成26年9月に新たに盛岡市いじめ防止等対策委員会を設置したことを記載してしております。課題及び28年度以降の方向性としてしましては、重大事態が発生した際の組織編制や盛岡市いじめ防止等のための基本的な方針に基づく市長部局との連携を図ることを記載してございます。

3件目は、通学路の安全対策でございます。事業内容としてましては、平成27年2月に策定した盛岡市通学路交通安全プログラムにより市長部局関係各課と連携していること、課題及び28年度以降の方向性としてしましては、各警察署の交通規制対策協議会との連携の方策や今後も継続して努力していくべきことを記載してございます。

簡単ではございますが、資料の説明は以上でございます。進行方よろしく申し上げます。

#### (谷藤市長)

これはなかなか、道路やいじめ関係は難しい問題であらうかと思いますが、松尾委員さんから何かございますでしょうか。

**(松尾委員)**

私は、不登校といじめ対策について申し上げたいと思います。

まず、盛岡市の不登校児童生徒の割合は、小中学校とも全国と比べて格段に低いことは評価に値することだと思います。それはまず第一に、教職員の皆さんの、児童生徒へのきめ細かな対応があげられます。また、幼小保連絡会議等でのいわゆる小一ギャップの解消、市内全域の小中一貫教育による中一ギャップの解消への取組などによる成果の表れであると考えられます。しかしながら、不登校生徒児童の数はゼロではなく、毎年わずかな増減を繰り返しております。本年度は、昨年度より増加の傾向が見られます。その背景には、加療を要するにもかかわらず病院に行くことが出来ずに養育困難となっている保護者や母子家庭等で社会的に孤立している保護者など、学校では対応しきれない家庭環境が多くみられます。

学校や教育委員会が保健福祉部と連携することにより、そういった家庭に対しての多面的な支援が可能となり、不登校の解消につながるものと思われまます。現在、国内では所得格差が大きな問題になっています。平成26年1月に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が成立、施行されました。その背景には、保護者の貧困が要因で自分自身の将来に希望を見いだせなくなり、学ぶ意欲を喪失していく子どもの増加があります。そのような家庭の情報を学校が捉え、保健福祉部と情報共有しながら、具体的な支援へとつなげていく連携が今後ますます必要になるものと考えまます。

続きまして、いじめ防止対策について、話させていただきます。

いじめは、いじめを受けた児童生徒の教育を受ける権利を著しく侵害します。その心身の健全な成長、及び人格の形成に重大な悪影響を与えるだけでなく、時には生命さえ奪いかねない行為で、絶対になくさなくてはなりません。本来、安心安全に学習や諸活動が行われるべき学校において、いじめが発生している現状は、教育上の大きな課題です。いじめの発生を未然に防ぐことが最も重大ではありますが、児童生徒が集団として活動する中で、いつ発生してもおかしくないと認識することが必要です。いじめの認知と再発防止のために、対策委員会や再調査組織が迅速に編成され、対応できるよう日頃から準備しておくことが大切と存じます。いじめ防止等の対策を総合的かつ効果的に推進するために、市長部局と連携を図ることは重要だと考えまます。以上です。

**(谷藤市長)**

はい。分かりました。星野委員長さんありますか。

**(星野委員長)**

はい。私からは、通学路の安全対策について、述べさせていただきますが、通学路の安全につきましては、現在、盛岡市では、昨年5月に策定されました盛岡市通学路交通安全プログラム、これにしたがいまして、市長部局の3つの課、くらしの安全課、道路管理課、道路建設課と連携して取

組を進めています。具体的には、毎年4月に各小学校が通学路の危険箇所について教育委員会に報告します。その報告を受けまして、教育委員会、学校、道路管理者、警察、このメンバーで合同点検を行っています。その点検結果を受けまして、関係部局4課で具体的な対策について検討しています。その上で7月に盛岡市通学路交通安全推進会議、この会議を開催しまして、そこで具体的な対策内容を確認し合います、その確認した対策を関係各課で実行しています。なお、課題としましては、信号機や横断歩道などハード面につきましては、公安委員会の承認を受けて行われることになっているため、各警察署で行われる交通規制対策協議会では、この会議では合同会議の結果が事前に盛り込まれていなければなりません。ですが、警察による協議会の開催日程が合同点検の日程よりも早く設定されているため、現在の制度では盛り込むことは難しくなっております。そのため、この点検日程を早めること、これが現在課題となっております。

通学路の危険箇所は、新しい道路の建設や道路の形状の変更により今後なくなることはないと思いますので、交通安全教育などソフト面での対応に限らないで、歩道整備等のハード面の整備も関係各課と連携した取組を今後も進めていく必要があると思っております。私からは以上です。

(谷藤市長)

はい。ありがとうございます。

今、不登校関係のいろいろな要素をお話いただきました。全国でも盛岡は低い方だと言いますが、どうしてもいろいろな要因、小一ギャップだとか中一ギャップだとか、含めていろいろあるとは思いますが、注意を払っていただいでですね、貧困の連鎖ということも含めて、これをきちんと支援していくことが大切だろうと思っております。いじめについても、痛ましい、尊い命が失われるということもあるわけで、非常に残念であり、そういう小さな芽に気が付くように、日頃から対策をお願いしたいと思います。

通学路関係についても、各部連携をしながらやっていく必要があると思っております。国土交通省関係の予算は、通学路関係についていろいろ見っていますが、公安委員会の関係で点検の時期を早くやらないとという話もありますので、関係部署と連携をとりながら、早め早めの対応でしていかなければなりませんし、交通指導隊の方々も朝夕の指導や地域の見守り隊の方々も多く参加していただいで心を砕いていただいでいると思っておりますけれども、どうしてもちょっとしたことで事故にあったりという場面も見受けられますので、有効な対応を心掛けていただくようにと思っております。

不登校、いじめ問題、通学路問題は、それぞれ各部局連携をとりながら、教育委員会だけでは解決しきれない問題もありますので、市長部局との関係で連携をとりながらやっていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

それでは、次に進めさせていただきたいと思っております。

③の「教育施設における課題」について、に移ります。事務局から説明をお願いします。

**(鷹嘴教育部長)**

資料2の③でございます。教育施設における課題はたくさんございますが、平成28年度事業として特に進展させたい事業として2件掲げてございます。

1件目は、玉山歴史民俗資料館・石川啄木記念館整備事業と道の駅設置事業でございます。教育委員会所管の両施設の整備事業と玉山総合事務所が所管の道の駅設置事業は連携して行うこととして、啄木の里づくり検討会議を開催し、両事業の検討を行っておること。課題及び今後の方向性としましては、庁内外から意見を広く聴取し、基本計画をまとめていく予定としていることを記載してございます。

2件目は、(仮称)盛岡学校給食センター建設事業でございます。事業内容としては、老朽化した都南学校給食センターの代替施設として新センターを建設することを記載しており、課題及び今後の方向性としましては、平成32年度の建設工事完了、供用開始に向けてのスケジュールを示してございます。

資料説明は以上でございます。進行の方よろしく申し上げます。

**(谷藤市長)**

今、説明がありましたけれども、この点については、田口委員さんから、何かありますでしょうか。

**(田口委員)**

それでは、私の方から

玉山歴史民俗資料館整備と石川啄木記念館の整備を合わせて行うということになり、同じ建物の中で建設するということは、大変望ましい姿になるなど期待しているところでございます。平成28年度につきましては、基本計画策定の準備のために庁内外における委員会を組織し、運営方法などについて広く意見を聞きながら議論を進めてまいりたいと考えております。また、道の駅につきましても、特色のある道の駅となりますよう、啄木関連施設との密なる連携については、ぜひお願いしたいと存じます。

次に、(仮称)盛岡学校給食センター建設についてでございますが、都南学校給食センター代替施設は、施設の老朽化の度合いから見て、重要度、緊急度とも高いものであります。そのため、学校給食の衛生管理基準に沿った施設建設は、安全安心な学校給食を提供するために必要不可欠なものであります。この事業は、特に施設建設の規模が大きく、また、新しく用地を取得しながら実施するものでありますので、教育委員会と市長部局の連携が必要であり、何とか早期完成を目指してほしいと考えております。よろしくお願いたします。

**(谷藤市長)**

はい。玉山歴史民俗資料館、石川啄木記念館の整備、それから道の駅、これが近接しているということにあると思います。若干土地が高低差があるということでこれをどうやって一体感を持たせていくか、石川啄木記念館、玉山歴史民俗資料館そちらにもたくさんの方々にも来ていただくか、せっかくの新設を予定しているものですし、内容的にもすばらしいものがありますので、できるだけ多くの方々に御覧いただけるためには、道の駅との連動、誘導をしていく形の道路、歩道それらを含めてうまくつなげていく必要があると思っております、これから、中身は詰めていくことになるとは思いますけれども、予定されている場所は、渋民バイパスが開通いたしまして、岩手山と姫神山が両方見れるすばらしい予定地があります。そのすばらしい景観、これを最大の売りにできるようにと考えておまして、楽しんでいただいた後に啄木記念館、民俗資料館に散策していただくように、うまく動線が作ればよいなと思っております。地元といろいろ協議を進めていくということです。これら、せっかくの盛岡の宝ですので、うまく生かしていきたいなと思うところでございます。

それから、学校給食センターは、かなり老朽化が進んでいるということがあります。これら、早期の整備が必要と認識しております。だいたひ計画地の絞り込みもなされておまして、向中野の道明地区を第一に考えてまして、いい場所が想定されております。これらにつきましても新しく整備される地域との関連がございますので、道路とか下水とか様々なものを整備していかなければなりませんので、そのタイミングがうまく合うように調整しながらよいかたちでまとめ上げていきたいなと思っております。具体的な整備手法もいろいろあろうかと思っておりますので、教育委員会の方で研究していただきながら、どういう整備手法がよいか課題になってきますので、この2つの施設はどちらも必要なものと思っておりますので、着工時期がいつになるかなど調整できればと思っておりますけれども、よい形で進むことを願っておりますので、教育委員会の方も掘り下げていただきながら研究を進めていただければと思っております。

予定していたことはここまでですが、せっかくの機会ですので、皆さんからお話ししたいことがあれば、お願いしたいと思っております。

市長部局からも来ていますが、何かありますか。

**(東堂公室長)**

今日は、委員さん方からも教育委員会と市長部局との連携という話をいただきましたので、道の駅と民俗資料館につきましても、連携して取り組んでおりますので、今後とも、必要に応じて連携して取り組んでいきたいなと思っております。

(谷藤市長)

いずれ、今の話のとおり、今後とも、教育委員会と市長、各部局との連携を密にさせていただいて、委員の皆様に応えるという気持ちで、気持ちを一つにしていきたいなと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは、議題は以上でございます。今回皆様方からいただいた意見は、様々ありましたけれども、それを踏まえて取り組んでいきたいと思ひます。今日は大変忙しい中、ありがとうございました。

#### 4 閉会

(菅原参事)

大変、お疲れさまでした。

それでは、以上をもちまして、第2回盛岡市総合教育会議を閉会します。

ありがとうございました。